

	団体名	所在地	事業名	事業概要
1	特定非営利活動法人 にじいろCAP	福岡県三潁郡	学校アドボカシー事業 事業名（副）：こどもが自分の環境の困難さを認知・表現できる地域づくり事業	<p>i) 久留米市・大刀洗町の各学校と協議して、「学校アドボカシー事業」の理解と協力を要請します。対象学校が決まったら、各学校に月に1度「学校アドボケイト」を派遣します。 お昼休みを利用して広い会場で2人のスタッフがと1名の補助員が子どもたちの話を聞きます。困難を抱える子どもが少しずつ①「自分の気分を表現する。」②「自分の気持ちを言葉で表現する。」③「家庭の困難改善を人手伝ってもらおう。」等アドボカシートレーニングまたは友人を支える等の体験を重ねていくことで困難を抱える家庭への子どもからのアクセスの向上を図ります。この事業を実施するために、毎年「学校アドボケイト養成講座」と「アドボケイト補助員養成セミナー」を久留米市で実施します。また、各アドボケイトのスーパーバイズを行うことで事業の質を担保します。 また、毎年少しずつレベルを上げていきつつ、アドボケイトの人数を増やしていきます。</p> <p>ii) 子どもたちの話の中からアセスメントが必要な状況を抽出し、アセスメントを行います。アセスメントシートを作成し、現場で利用しながら改善を積み重ねていきます。アセスメントの結果何らかの支援が必要と判断した事例に対して、子どもの同意を取ります。</p> <p>iii) 子どもの同意のもとで、学校、久留米市・大刀洗町、久留米児童相談所、関連NPO当チーム等に繋ぎ、支援を実施します。その結果を子どもと共有しながら改善につなげていきます。 子どもから直接家庭や環境の困難を聞くという手法を地域の支援者や支援NPOに伝え・理解され・支援されるために、地域で「アドボケイト補助員養成セミナー」を開催します。</p>
2	特定非営利活動法人 あーすちゃれんじゃー <コンソーシアム申請> アグリ・クリエイティブ・シ ーズ株式会社	福岡県小郡市	子どもたちの未来応援つながるバンク事業 事業名（副）：子ども若者とその家族のための農業体験によるキャリアアップ事業	<p>令和3年度の調査では、母子家庭の母の平均年間就労収入は約236万円という結果であり、その中に含まれる子供の教育費を考えると十分な収入ではなく、今後、経済的負担が増すことは明らかである。現代の社会情勢の課題として、経済格差、環境問題、食糧危機など数多く挙げられる。このような社会背景を鑑み、当団体は、新型コロナウイルスの発生直後から、ひとり親世帯や何らかの事情で生活が困窮している子育て世帯へ食料品を無償提供する「フードパントリー事業」を行っている。これからの社会情勢を考えると更に経済格差は広がり、食料危機は深刻なものになると危惧する。また環境面では、食品ロス問題が挙げられる。総務省によると日本の食品ロスは612万トンにもものぼる。このように食糧危機問題、食品ロス問題そして経済格差問題の解決につながり、子どもたちやその家庭に持続可能な支援に繋がる事業であることから、今後も「フードパントリー事業」を行っていく。次に近年こどもの問題行動等が教育上の重要な課題として指摘されている。特に人間関係をうまく作れない、集団行動に適応出来ない子供の増加などが挙げられる。また、文科省によると令和4年度の不登校児童生徒は、約29万人で過去最多であった。このような課題に対して、広い農園をフルに活用し、五感を通して感受性を高め、ウェルビーイング向上に繋がる「自然体験や農業体験によるキャリアアップ事業」を行う。現在は、自然や地域社会と関わる機会の減少に加えて、ひとり親世帯や生活困窮世帯では、更に自然体験をさせる機会が少ない。このキャリアアップ事業を勤めることで、学校以外で子供の自由で豊かな人間性を育み多様な学びが出来る場を提供する。「相談事業」は、厚生労働省の自立相談支援事業における新規相談受付件数が令和2年度は前年度比約3倍と急増しており、今後も相談者の増加が伺えることから身近な相談相手として活動を行う。</p>

3	<p>いろり</p>	<p>佐賀県鳥栖市</p>	<p>互いに手を取り合い生きやすい地域をつくるための事業</p> <p>事業名（副）：心もお腹も満たされるいろり端の様なあたたかい居場所づくり</p>	<p>昼間は不登校や通信制の学校などで学ぶ子どもやその親の居場所として、また産後間もない中で居場所が自宅しかない様な保護者の息抜きの居場所として開所する。「おばあちゃんの家」の様な大人も子どもも第三の居場所として「いつもそこにある安心感」を提供する。今までも一緒に行政窓口の相談に随行したり専門家へ繋げる事をしてきたが、定期的に会う機会が無いと相談しづらい様で事態がこじれるまで我慢している事もあった。日常の何気ない雑談の中に「悩みの種」は潜んでいる事もあるため、雑談をしながらその悩みの種を見つけ早期解決のヒントを本人と一緒に見つけ拗らせない事を目指していく。子ども達の幸せはまずはその周辺の大人たちが幸せであることが基本になるという理念のもと、さまざまな物心両面で横に並んで一緒に歩む伴走者としての支援を目指す。保護者の中には前職や副業で現職とは違う職業の資格や技能を所持していることもある。将来的に店やサロンを持つ事を希望している者には部屋を使ってもらい、その夢に向かい技能の腕を磨いてもらう空間にする。夜に帰りが遅く孤食になる子どもたちや大人たちには食事を提供し、交流や癒しの時間としてもらう。これまでも生活に不安が強い利用者や精神疾患を持つ利用者などからは夜間に不安を訴えるLINEを受け対応していた事もある。精神疾患の有無に関わらず不安や孤独が深まる夜間には顔が見える傾聴をして寄り添う。介護には夜間のレスパイトが認められているが、育児には夜間のレスパイトが無い事から必要に応じて宿泊する事も受け入れる。</p>
4	<p>地域づくりプロデュースし隊</p>	<p>福岡県久留米市</p>	<p>孤独を感じれない仕組みをつくる地域づくり</p> <p>事業名（副）：人を信じて繋がる事が出来れば何でも出来る</p>	<p>現在における、あらゆる問題において個々、団体ともにどう関わってよいか解らず、問題は深刻化していくばかり。困難を抱える家庭の問題も同様に益々深刻化、そもそも困難を抱える家庭だけでは問題を解決できないので、子供たちだけにターゲットを絞るのではなく、その周りの人も心の安定をはぐくみ、どう関われば良いかを育てる。そんなことなら出来る、そんな事であればやりたい！と思わせる魅力ある仕組みで仕掛ける。心を育み元気にするためにイベントや活動を行う。活動に当たっては、古い価値観や目先の利害にとらわれないようにする。居場所と流れを作るだけ。活動の意義を理解し常に目的と照らし合わせ、本事業の目的を一步一步叶えていく。大人が生き生きとしている姿が子供たちを輝かせることに繋がるので活動するにあたっては、無理なく、できることを、出来る人が楽しんで参加することを心がける。関係性が作れると気持ちに余裕が出来る為、人に寄り添い助け合いができると考える。</p>

5	特定非営利活動法人 久留米市手をつなぐ育成会	福岡県久留米市	障害や病気をもち困難を抱える家族を地域で支えるしくみづくり	<p>久留米市及びその周辺地域において、特に障害・病気などの困難を抱えた家庭が取り残されないために、以下の事業を行う。</p> <p>1. 訪問によるアクセス活動・アプローチ活動＝オリジナルチーム編成型の個別支援 医療機関や幼児教育研究所などと連携し、障害や病気をもつ子の家族をできるだけ早い段階で、同じ立場の家族とつなぐことのできる仕組みを作る。また、居場所やイベントなどでつながった人づてに、「実はあの子が気になる」「そういえば、その家族も心配」など、行政の窓口まではいきつかない周囲の気づきやおせっかいを集めていく。こうして把握した家庭に対して、様々な背景や領域のピア（仲間）の人が関わるチームを作り、複数人による各家庭へアプローチする「オリジナルチーム編成型の個別支援」を行う。</p> <p>2. 居場所・イベントなどによるアクセス活動＝居場所・仲間作り 定期的なイベントの開催やオープンスペースの運営により「誰もが参画でき常連になれる居場所作り」を行い、そこでの何気ない会話から家庭の困難を常時拾い上げる。また、障害や病気をもった子が参加しやすいイベントを開催し、その家庭にアクセスするとともに、悩みや気になることが相談しやすい居場所につなげることで、より困難な状況に陥る前の予防的視点も重視する。</p> <p>支援を受けつつも持続可能に地域で生きていくには、個別化した支援をさらに外部に開いていく必要があり、本提案は、ピアサポートの要素をもった個別支援チームを作っていくことや、イベントや居場所における支援を通じて、様々な領域のピア（仲間）の人が関わることで家庭にアプローチしつつ、解決を「家庭+α」に広げていく。</p> <p>また、個別支援で出会った子ども・親がイベントなどの運営に関わり、また次のこどもたちを支援する循環も意識する。この様に支え合いを通して地域での見守る人を増やし、困難を抱える家庭を取り残さない地域社会を目指していく。</p>
6	お母さん大学福岡（ちっご）支局	福岡県久留米市	孤育てをなくしお母さんを笑顔にするエンパワメント事業	<p>孤立してしまい支援につながりづらい状況になる前に安心できるつながりをつくり“孤育て”を予防することで、シングル、貧困、産後うつ、虐待、ネグレクト、不登校など実際に困難に陥った際にも迅速に必要なサポート、地域資源につながるができるシステムを構築する。どんな状況になっても安心感のある子育て、「母になれてよかった」と心から感じられる社会の実現に向けて事業を行っています。①孤立した子育てをなくしお母さんの笑顔をつなげる「お母さん業界新聞」を久留米市とその近郊の保育園幼稚園、または赤ちゃん訪問時など子育て中の母親に直接配布。そうすることで孤立した子育てを予防し子育ての喜びを感じられる社会へと醸成する。②子育て中の母親自身が「お母さん記者」となり発信をすることで子育ての学びあいの場ができお母さん自身の人間力（地域とつながる力、周りにたよる力、自分の内面をシェアあできる力、誰かのためにと動ける力）を育てる。③築45年のアパート（松葉荘）の1室を活用し母子の居場所づくりを行い地域とのつながりづくり、学びあい、仲間づくり、子育ての苦楽を共有できる環境を提供する。④必要な資源、専門家とのパイプをつくり、必要に応じて組織で対応できるアセスメントの仕組みを構築する。⑤必要な資源につなげるための連携の仕組みを形成する。⑥不登校の親とその子どもたちのための体験の場やつながりの場を提供する。⑦企業内での子育て中の社員のセーフティネットとなる。</p> <p>・久留米市と佐賀市という離れた場所で展開することで、産後うつや不登校など同じ地域の人には知られたくないから近くの集まりには出かけられないというリスクを回避する。</p>

7	一般社団法人umau.	福岡県久留米市	<p>困難を抱える家庭の支え合う暮らし「3分の1生活」プロジェクト</p> <p>事業名（副）：一血縁のない大家族づくり</p>	<p>当事業により、困窮する家庭・困難を抱える家庭の「3分の1生活」が成立する仕組みと環境を整えることを目指す。「3分の1生活」とは、月に30万円の収入を得るために頑張るのではなく、現在の月収10万円でも豊かに暮らし合えること。そして毎日の家事や育児や仕事のルーティーンをみんなで支え合うことで時間や心に余裕を持てる生活を行なっていくことを指す独自の用語である。</p> <p>私たちが取り組む社会課題は「貧困」。活動の中で実感している、経済的貧困の要素として経験不足や生きてきた家庭環境、教育の不成立や愛情不足等、様々な「不足」から現社会の常識には追いつくことが出来ず、責任を果たせず、生きづらさを感じるまま抜け出せない家庭がたくさん存在することがわかってきた。</p> <p>この抜け出せない環境に逆らう方法を見つけ出すよりも、素直に受け入れ合える環境をつくり、個人や各家庭毎に頑張って生きていくのではなく、他人同士でも損得勘定のない支え合える環境をつくることによって、「貧困」からの脱出を目指していく。</p> <p>当事業において、アクセス・アセスメント・アプローチの強化と環境整備を行うことにより、まだ出逢えていない人の協力が必要なご家庭と共に生きていける関係性を築き、その多様なご家庭に必要な支援や制度等が繋がり、更に同じ志を掲げ連携し合える仲間と共に、活動をコーディネートし社会的役割をみんなで分け合い広く深く支援体制を整えていくことを3年間で実践していく。</p> <p>わたし達は「血縁のない大家族」と掲げて活動を続けてきた。各家庭だけに、今後の社会を担うこども達の生活環境の責任を持たせることは、あまりにも無謀なことだったのではないかと感じている。「貧困」という課題は、各家庭の問題だけではなく地域社会全体で、考え、担い、協力する必要がある。</p> <p>3分の1生活を成立させることで、困難を抱える家庭の希望ともなる生き方の選択肢を構築する。</p>
8	一般社団法人 産前産後サポーター協会	福岡県小郡市	<p>地域の力で産後ケアをうける事があたり前の社会をつくろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産前産後ケア後困難を抱える伴走支援事業 ・産前産後からつながった母子とその家族が気軽に利用できるカフェの設営 ・予約なくいつでも相談休息できる場の居場所づくり ・地域に根差した伴走型の学習療法 ・産前産後が要である食育学習支援、自分の人生を振り返ることのできる場としての子供に限らない自分の存在を認めてくれる場、ぎくしゃくする家族を整え厚生する場・産前産後の限定せずだれでも出入りできる安心の場を ・行政では拾えない長期スパンのフォローができる場 ・悩みの多様性に（不登校・発達障害）全て相談ができ、関連行政、病院、社会資源につなげる ・地域でともに解決方法を探る ・西洋医学以外の自然の摂理を考えた中国医学を中心とした広い選択肢とともに長期的な自立のできる知恵とケアの提供取り組む・定期的な家庭で活かせる情報提供の講座を設け浸透させ、誰もが自然の中で、ストレスなく生活できる社会を目指す。産後ケア事業の拡充、とくに産後ケア事業に重きを置いている久留米市近郊の病院との連携、NPO 団体、社会教育、自治体、学校、性教育を含めて男性の子育てスキルアップのための講座・女性の妊娠出産子育てに係る人間関係の関わり合いの仕方、生活に密着した行政のパパママ教室を超えた生活に密着した活動をカフェにて行う・おじいちゃんおばあちゃんの現代の育児教育・伴走支援者の教育・体験型（料理・子育て・野菜作り・視線に触れる・味噌づくり・）体験することによって与えられるだけでなく自分で自分の身体にしみこませて、人生に活用できるような体験の提供。立地条件を生かした体験教育を取り込みながらあなただけのオーダーメイドケア教育の提供

9	株式会社オヤモコモ	佐賀県佐賀市	<p>産前産後BASE「マザーバトン」</p> <p>事業名（副）：産前産後は予期せぬ不安、孤立に陥りやすいので、基地（BASE）に集まる母たちで助け合いのバトン、次世代へのバトンを渡す</p>	<p>出産後の親子の孤立という課題に対して、助産師さんによる産後ケア事業や行政サービスでもない、私たちだからこそ出来る事業、及びチームの一員としての貢献、関係機関との連携、また持続可能な状態を目指して、自団体の基盤強化を行います。</p> <p>1,孤立を感じている妊娠期・産後の人がつながり、参加しやすい状態（アクセス・アセスメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1-1 妊娠中に参加したくなるセミナーやイベント実施 ・1-2 0歳児の赤ちゃんと一緒に遊ばせる場の提供 ・1-3 気軽に抱えている悩みを話す場の提供（ランチ会など） ・1-4 一時預かり事業 ・1-5 訪問型育児サポート <p>2,悩みを抱えている人が解決に向けて必要な支援を受けられる状態（アプローチ活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2-1 0歳児の赤ちゃんの発達のことを知る機会 ・2-2 仕事復帰に向けた不安解消のためのサポート ・2-3 育児のリフレッシュになるちょこっとワーク（自分のために使うお金を稼ぐ体験） ・2-4 母親たちが自分を大切に作るきっかけ作り～ヨガなど～ <p>5 赤ちゃんの抱っこや睡眠に対する支援として、自社の商品(主に赤ちゃんの抱っこと睡眠をサポートするマット)のレンタル</p> <p>3,コレクティブインパクトチームとしての役割と関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3-1 他団体との対話、ミーティングを通して社会課題をより広い意味で認識できるようになる ・3-2 事業の中でスムーズな情報提供ができるように、情報の整理と資料の準備 ・3-3 チーム内や関係機関への相談や連携がスムーズにできるように、コミュニケーションと関係性作り <p>4,基盤強化に伴い、資金面の安定、人財の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-1 収入源の道筋の拡充と業務フローの作成が出来ている状態 ・4-2 育児中の女性のリスクリングと活躍の機会の創出 ・4-3 自社商品のBtoB販路開拓
10	コップルーム～寄り添いホッとチャイルドライン安心安全な居場所～	福岡県久留米市	<p>困難を抱える子どもと家族がほっとできる居場所づくり</p> <p>事業名（副）：子ども×家族×未来 ～つなぐホットステーション～</p>	<p>小学校で学習支援をしていたある日「先生、僕には本心を話せる人がいない」このつぶやくように発した子どもの言葉を聞いたことがこの活動を始めたきっかけです。授業のサポートもさることながら彼らの学習の継続支援の必要と、子どもの精神的な支援が必要ではないかと強く感じ、始めた活動です。「コップルーム～寄り添いホッとチャイルドライン安心安全な居場所～」は、週に1回土曜日に合川校区コミュニティーセンターや十三部公民館を拠点にして子どもたちや両親との交流の場として活動中です。遊び、学習支援、ものづくり、社会見学、異世代交流を通して子どもを孤立させることなく、心身の健やかな成長を願い私たち大人も子どもたちから学ぶ、そんな居場所づくりを目指しています。子どもたちのお話を聴いていると、進学的不安や先生への不満、友人関係の悩み、将来への不安など多くの問題を抱え悩んでいるのがわかります。両親や先生方も一人一人に対応したくても人員的にも時間的にも難しいなど課題は多いことを感じます。その中でも少しでも子どもたちが心を開ける大人や、心を許せる環境があれば、不安を言葉にでき、前に進むのではないかと考えます。昨今小中高校生の自殺が過去最高に増加しており、ASD,ADHD,LDなど子どもたちの個性も多様化しています。一人でも多くの大人たちがゆっくりと子どもの話に耳を傾け、子どもの「想い」に寄り添うことができる安心安全な居場所を目指します。また、子どもたちの両親とも信頼関係を構築し様々な困りごとに対しても、寄り添い傾聴しながら解決に導いていきたいと考えています。子どもたちは友人を誘い、家族や支援者も関係者にお知らせしながら、気軽に利用可能な皆が集える安心安全の居場所を目指しています。外部講師に登壇を依頼して年3回の食育講座や子育て講座など各種講座を開催し、子どもやその家族や関わる方々にも啓発を行っていきます。</p>